

釧路南ロータリークラブ会報

第11回 例会報告 2008.9.19 通算1270回

・点 鐘 北上会長 ・会長挨拶

・ロタリーソング
「それこそロータリー」



ソングリーダー 和田 優会員



本日は久島次期ガバナー補佐、松田ガバナー補佐のご来訪有難う御座います。ロータリーの発展、結末に非常に大変なご尽力を頂いて感謝申し上げます。本日は是非、南クラブ会長の舌足らずになっているロータリーのお話を我がクラブの若手にお話頂ければ幸いです。私はまだ余りロータリーの仕事を実行していない感じがしますが改めてこの2ヶ月を振り返ってみますと落ち着いてこの席にいたという時が無いような感じが強いです。何かと会員の皆さん、幹事、役員には御迷惑をお掛けしながら行く事になりますがお許し頂きたいと勝手に先に誤ってしまいます。先日の当南ロータリークラブの後援を頂き（エコと奉仕でメダテヘアメイク）の開催も成功に終わり工藤幹事のお孫さん、長倉副会長のお子さんもエコネイル部門に参加し共に立派な遺伝子をたもたれて受賞をされ、タイのマングローブの植栽事業に多大な寄付を頂きお礼を申し上げます。後日の訪問団に良いおみやげを渡せるのを嬉しく思います。

・お客様と来訪ロータリアンの紹介

第7分区ガバナー補佐 松田 信明君
第7分区パストガバナー補佐 久島 貞一君

・誕生祝

工藤 ゆかり会員 S32.9.23(51歳)



・幹事報告



- * 中標津 R C より創立 50 周年記念式典のご案内を拝受しております。
- * ロータリーアクトクラブより 2008 年 2009 年度、第 3 ブロック合同例会登録のご案内を拝受しております。9 月 21 日ラスティングホテルにて開催されます。出席希望者の方は幹事までお知らせください。
- * 釧路北 R C 金森地区大会実行委員長より五木寛之先生の市民公開講座が地区大会の 10 月 11 日(土) 12 時 30 分開場で釧路市民文化会館にて行われます。
- * 地区大会の準備もちゃくちゃくと進んでおります。開場が超満員に成る様に皆様のご協力宜しくお願い致します。また、入場は無料ですが 1 人あたり 5 枚ほどチケットの配布をお願い申し上げます。さらに、この度は全員登録ありがとうございます。1 冊 1100 円の五木寛之先生の本を皆様に配布する事になりましたので、宜しくお願い致します。

・委員会報告
親睦委員会

・本日のニコニコ献金

工藤 ゆかり会員	誕生祝として
長倉 巨樹彦会員	娘が北上会長のイベントで賞をいただきました。

・本日のプログラム

「ポリオ撲滅説明」

担当 会長・幹事

ポリオ撲滅支援寄付に関して

第 7 分区ガバナー補佐 松田信明



今年度 R I 会長は、世界の子どもたちに光を当てることを会長方針とし、テーマを『夢をかたちに』とされ、その最重点活動の一つに『ポリオ撲滅』を掲げられたことは、すでに皆様ご存知のとおりでございます。ロータリーが取り組んできた『ポリオ撲滅活動』について、若干説明させていただきますと、ポリオは「小児まひ」といった方がわかりやすいかもしれませんが、詳しいことは、久島先生からお話いただければと思いますが、かつて、日本でも大流行をしたことがある、ポリオウィルスにより手や足など筋肉にまひが起きる病気のことです。1979 年、国際ロータリーは、フィリピンで、生後 3 ヶ月から 36 ヶ月の子ども約 600 万人に対して、5 年計画のポリオ免疫活動を始めました。これが、ロータリーがポリオ撲滅に取り組んだ第一歩です。その後ロータリーは大々的に 3 度の『ポリオ撲滅キャンペーン』を実施することになります。1 度目は、1985 年、ロータリー創立 80 周年に当たって、「ポリオ・プラス計画」を発表。プラスとは、はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核を指しますが、ポリオだけでなく、これらの病気についても予防接種を実施することになりました。この年 1985 年は、国連総会で、ユニセフの「予防接種普及事業 (EPI Expanded Programme of Immunization)」推進決議が、国連 40 周年記念事業となった年でありました。当時、各国元首とともに、ロータリーも NGO (非政府組織) 団体の一つとして、この決議に賛同、署名しました。このキャンペーンで日本のロータリーは、募金総額 40 億円を最終目標として、1986 年 7 月から、5 年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンを実施しました。先輩ロータリアンの方はご記憶のことと存じますが、このキャンペーンにより 5 年間で、目標額をはるかに超える約 49 億円の寄付金を集めました。国際ロータリーでは、1989 年 6 月までの 3 年間でキャンペーン期間としていましたが、この間で米貨 2 億 4700 万ドル (約 270 億円) を集めました。これは目標額の 2 倍に達する募金となりました。2 度目がロータリーが創立 100 周年を迎える 2005 年 2 月までにポリオの撲滅を実現しようと、2002 年に新たな「ポリオ撲滅キャンペーン」を展開しました。この時点で、ポリオは 99% 撲滅したと言われていましたが、残りの 1% は、紛争地帯やへき地など、ワクチンを投与するのに困難な地域が多く、それまで以上に多くの資金を必要としていました。目標額は 8,000 万ドル (約 90 億円) でしたが、この結果、2003 年 6 月末の時点

で、誓約も含めて1億1,150万ドル(約126億円)以上が集まりました。このようにポリオ撲滅に向けて、ロータリーは組織をあげて努力を重ねてきましたが、このために調達した額は、昨年2007年の時点で、6億6300万ドル(約750億円)を上回っております。さて3度目のキャンペーンということになりますが、昨年2007年11月26日、国際ロータリーは、ビル・ゲイツ財団と協同で、今後世界でポリオ撲滅に必要とされる2億米ドルを投入することを決議・発表しました。ゲイツ財団から1億ドルの補助金を受領したロータリー財団は、この時点から3年間にこれと同額の資金を調達するための募金活動を行っていくことになったのです。これが世界からポリオウィルスを完全撲滅するための3度目の挑戦ということになります。現在ポリオの残る国は、アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタンの4カ国だけと言われております。「ロータリーは、ポリオ撲滅宣言の証にノーベル平和賞を狙っている」とか、いろいろ耳に入りますが、足立ガバナーは、その重い課題を背負って地区ガバナーに就任したと言う訳であります。寄付額の詳細になりますと、ポリオ撲滅のためにR I財団では足立ガバナー年度を初年度として、3年間で1億ドルの資金を集めることとなります。寄付資金を単純計算すると、世界に約3万3千のクラブがありますので、各クラブ毎年1,000ドル、2500地区内67クラブでは67,000ドルとなり、地区会員数2,400人で割ると、1人28ドル弱(約3,000円)を毎年拠出することとなります。

拠出方法としては

会員からポリオ負担金として、28\$を上期・下期に分けて徴収する。

ニコニコ献金の中から、28\$×人数分を納める

ポリオのための粗食例会を年数回実施し、その剰余金を当てる

ポリオ撲滅募金を街頭等で実施する

等々の方法が考えられますが、その方策は各クラブにお任せし、なんとか7分区の目標額を達成させて頂きたいとお願いする次第です。また通常の財団年次寄付は、例年通り1人平均100ドルが目標となっていますので、併せてご協力を宜しくお願い致します。私としては、ガバナーを輩出したクラブのガバナー補佐でありますので、ただただお願いの行脚ということになりますが、重ねてご理解とご協力をお願いし、本例会を設定いただきました会長・幹事様にお礼を申し上げ、プログラムのスピーチとさせていただきます。

第7分区パストガバナー補佐 久島 貞一



「ゲイツ財団による補助金と ロータリーによる同額寄付」

「ロータリーは、今、ロータリーの歴史に残る時を迎えました。私たちの最優先目標である「ポリオのない世界」の実現に向け、必要とされている米貨2億ドルを提供するために、国際ロータリーとビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団が新しく協同関係を結びました。

国際ロータリー会長、ウィルフリッド・J・ウィルキンソン

この補助金の条件

ゲイツ財団はロータリー財団に対し、1億ドルの補助金を提供し、これを受けてロータリーが今後3年間でこれと同額を組み合わせることでポリオ撲滅に寄付することになりました。これは、ボランティア奉仕団体に提供された補助金としては史上最高額であり、私たちのポリオ・プラス・プログラムでのアプローチと成功が大きく認められたことを物語るものです。国際ロータリー理事会とロータリー財団管理委員会は、撲滅目標実現に資金投入が必要不可欠とされるこの時期に提供された、同額の組み合わせを求める今回の補助金の申し出を受け入れることに、全会一致で同意しました。このため最初の1億ドルは、2008年のポリオ予防接種活動を直接支援するために、ロータリー財団によって、世界保健機関およびユニセフを通じて支給されることとなります。ロータリーは、2008年1月1日より3年間にわたって1億ドルの新しい資金を調達することを約束し、ゲイツ財団からの同額組み合わせの補助金の申し出に応えました。このロータリーによる新ポリオ・プラス募金活動は、2008年7月1日より正式に開始され、2010年12月31日までに完了する予定です。

ポリオ撲滅にさらなる資金が必要とされる理由

2007年2月に開催されたポリオ撲滅全関係者の協

議において、世界保健機関事務局長は、撲滅の目標を実現するには撲滅活動への追加資金の投入が緊要であることに言及しました。過去数年間にわたり、ポリオ常在国、リスクの高い国、ウイルス流入国における補助的な予防接種の実施回数を追加したことによって、ポリオ撲滅活動はさらに活発になりました。インドを例に挙げると、地域によってはほとんど毎月予防接種活動が実施されており、1回ごとに何千万人もの子供たちを対象としています。

こういった追加活動を支えるためには、当然、追加の資金や人材が必要となります。1985年、ロータリーは、ポリオの脅威から世界中の子供たちを解放すること約束しました。そして今、私たちはその寸前まで来ています。ロータリーとゲイツ財団による今回の資金提携は飛躍的な前進をもたらし、ポリオ撲滅という私たちの最終目標の実現へとさらに近づけてくれるものとなるでしょう。技術的な手段が既に整っている今、私たちはこの仕事を完遂しなければならぬのです。

「ロータリーとゲイツ財団のこの共同での取り組みが、ほかの財団や各国政府、非政府組織をはじめとする寄付者に対しても、ポリオの根絶に必要なリソースを確保するために立ち上がるよう、奮起を促すものとなることを願っています。

ロータリー財団管理委員会ロバートS.スコット委員長

ポリオ撲滅の進捗状況

ポリオ撲滅に向けての進捗には、現在も目覚ましいものがあります。1985年にロータリーがポリオ・プラス・プログラムを開始して以来、ポリオの症例数は99パーセント減り、ポリオ常在国の数は125カ国余りから、2006年末のわずか4カ国にまで減少しました。2007年の世界的なポリオの症例数は、2006年より推定50パーセント減となることが見込まれています。残されたポリオ常在4カ国(インド、ナイジェリア、パキスタン、アフガニスタン)においても、野生ポリオウイルスが蔓延しているのは非常に限られた地域のみです。

ロータリー・クラブとロータリアンに求められる支援

この活動を成功させるには、ロータリー・クラブならびにロータリアンの皆さまからのご支援が極めて重要です。

各クラブには、今後3年間、毎年1,000ドルを目標とする募金活動を実施するよう呼びかけられています。

会員一人ひとりも、個人的にこの運動に参加するよう呼びかけられています。ロータリーの優先的プログラムであるポリオ・プラスに参加したことのない新しいクラブや会員には、特に参加が奨励されています。現在、ゲイツ財団からの補助金への同額組み合わせを達成するための具体的な計画が立てられており、数カ月後には地区ガバナー・エレクトに詳細をお伝えできる予定です。

ポリオ撲滅活動へのほかの資金提供者

ゲイツ財団とロータリーによるこのような並々ならぬ決意は、ポリオのない世界という夢の実現に向けて、ほかの団体や人々からのさらなる寄付をもたらす火付け役となりうるものです。

海外の援助国は引き続きポリオ撲滅へ支援を提供すると見込まれていますが、マラリア、HIV・エイズ、結核といったほかの公共保健問題へ向けられる資金との競争が激しくなっているのも事実です。

ゲイツ財団は、ロータリーとの関係における重要な活動の一環として、ポリオ撲滅の提唱を支援することに同意しました。



Make Dreams Real
夢をかたちに

・ 次回のプログラム

9月26日(金) 休会(9/28に振替)

9月28日(日)

「スポーツ例会(家族同伴)」

会場 赤いベレー

担当: 親睦活動委員会

・ 点 鐘 北上会長
今週の会報担当: 長倉巨樹彦会員